



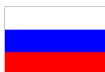
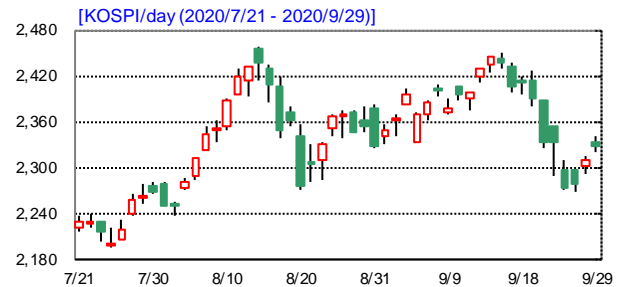
【韓国】 総合指数は週間で 2.2%高と反発、引き続き様子見ムード強い展開か

先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で 2.2%高と反発。9月30日と10月1-2日が秋夕連休で休場のため、2日間のみの取引だった。連休を前に商いは低調だったが、指数は前週に週間で 5.5%安と大きく下げ、9月24日には約7週ぶり安値をつけた後とあって、値ごろ感の出た銘柄を中心に買い戻す動きが広がった。

新型コロナウイルスの国内新規感染者数が減少したことや中国の8月の工業企業利益が4カ月連続で前年同期比で増加したことも投資家心理の改善に寄与。中国最大のファウンドリー、SMICへの米国政府による輸出制限で韓国企業が恩恵を受けるとの期待から半導体関連が買われた。今週は9日がハングルの日で休場となるため、引き続き様子見ムードの強い展開となるか。経済指標では、6日に外貨準備、7日に経常収支が発表される予定。

▼指数チャート

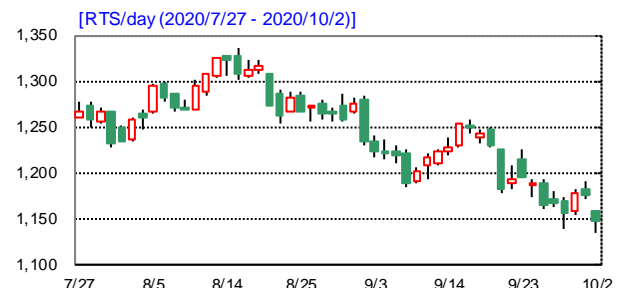


【ロシア】 RTS 指数は週間で 1.4%安と続落、今週は原油相場をにらんだ展開か

先週の動き／今週の展望

RTS 株価指数は週間で 1.4%安と続落。原油相場と為替市場をにらみつつもみ合ったが、週末に原油の大幅安や新型コロナ感染再拡大を受けて急落し、マイナス圏で週を終えた。週明け28日はルーブル安が重しとなるも原油高が好感され、小幅に反発。その後は一進一退の展開となったが、2日にブレント原油相場が3%超下落したことに加え、欧州などでの新型コロナ感染再拡大が嫌気され、大きく下落した。指数は1日の場中に前週末比 2.3%高の 1191.19 ドルまで上昇したものの、2日は 1148.07 ドルで引け、終値としては5月15日以来の低水準で取引を終えた。個別ではガスプロム、アエロフロート・ロシア航空、ルクオイルが大幅に下落し、指数を押し下げた。今週はコロナ感染再拡大や原油相場をにらんだ展開か。

▼指数チャート



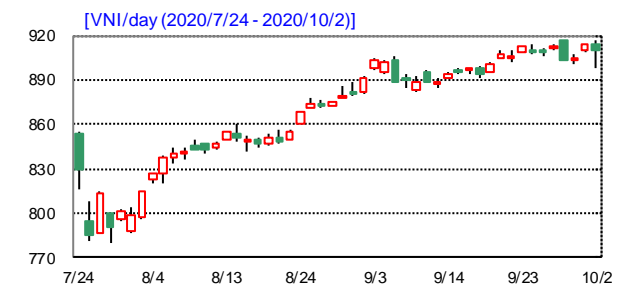
【ベトナム】 ベトナム指数は週間で 0.2%高と 3 週続伸、今週は引き続き底堅い展開か

開か

先週の動き／今週の展望

VN 指数は週間で 0.2%高と 3 週続伸。トランプ米大統領の新型コロナ陽性で一時大きく下落したが、米追加経済対策への期待が支援となった。週初から上下にもみ合った後、1日は米国で追加経済対策への期待が高まったことで VN 指数は 1.0%高の 914.09 ポイントで引け、終値としては2月21日以来の戻り高値を更新。米ドル高の流れが一服したことも新興国市場への資金流入を後押しした。2日はトランプ米大統領のコロナ陽性が伝えられ、指数は一時 2%近く下落したものの、下値では押し目買いの勢いが強まり、前日比 0.5%安と下落幅を大きく縮小して週を終えた。個別では、ペトロベトナム電力総公社、ホア・ファット・グループ、モバイル・ワールドなどが大きく上昇し、指数を支えた。今週は引き続き底堅い展開か。

▼指数チャート



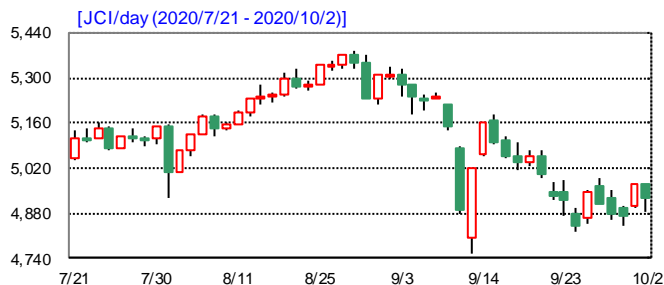


【インドネシア】

【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 0.4%安、トランプ米大統領の新型コロナウイルス感染で下落

ジャカルタ総合指数は週間で 0.4%安と続落。9 月月間では 7.0%安。先週は 4900 ポイントを挟んでもみ合った。週半ばの 30 日まではさえない値動きで 3 日続落。一方、1 日は前日の NY ダウが米与野党による追加経済対策の合意観測が強まった効果で上昇した流れを引き継ぎ、金融株を中心に買い優勢の展開。指数は前日比 2.1%高と反発した。ただ、2 日はトランプ米大統領が新型コロナウイルスに感染したことが売り材料視され、反落して取引を終えている。今週は 8 日に 8 月の小売売上高が発表される予定。国内では各地で大規模社会制限の期間が延長されており、経済活動への影響が指数を左右しそうだ。

▼指数チャート

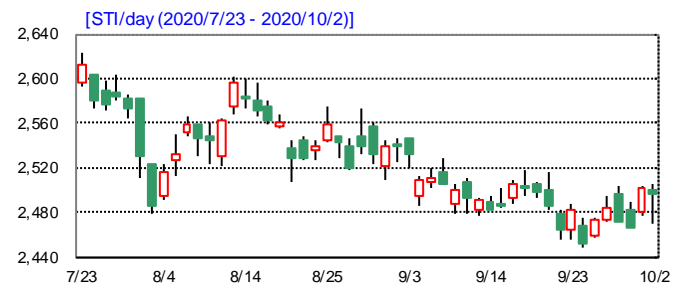


【シンガポール】

【先週の動き／今週の展望】ストレーツタイムズ指数は 1.0%高、シンガポール・テレコムが CEO 交代を発表

ストレーツタイムズ指数は週間で 1.0%高と反発。9 月月間では 2.6%安。先週は中国の堅調な経済指標が指数を支えた。週初の 28 日は中国株の上昇に連動して続伸したが、29 日は買い材料に乏しく反落。30 日も売り優勢の展開が続いたが、1 日は前日に発表された中国の 9 月の公式製造業 PMI と財新製造業 PMI がほぼ市場の予想通りだったほか、来年初めの CEO 交代を発表したシンガポール・テレコムの株価上昇も奏功し、指数は終値で前日比 1.4%高と約 2 週間ぶりに 2500 ポイントを超えた。ただ、勢いは続かず、2 日は反落し引けている。今週は 5 日発表の 8 月の小売売上高に対する市場の反応が注目される。

▼指数チャート

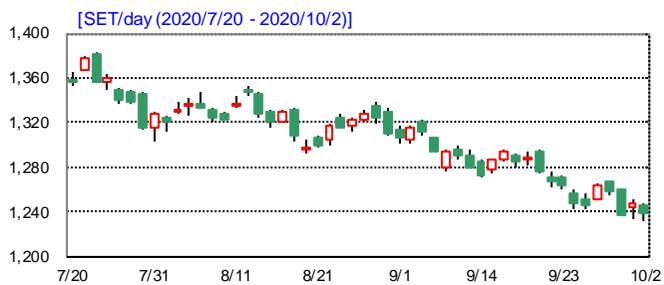


【タイ】

【先週の動き／今週の展望】SET 指数は 0.6%安、NY 原油先物の急落を嫌気

SET 指数は週間で 0.6%安と続落。9 月月間では 5.6%安。先週は外部要因が指数を左右した。週初の 28 日は、前日に発表された中国の 8 月の工業部門企業利益が前年同月比 19.1%増と 4 カ月連続で前年の水準を上回った効果で、指数は前営業日比 1.5%高と反発。一方、29 日に反落すると、30 日は金融株とエネルギー株が売られ、終値で前日比 1.6%安と続落した。週後半は 1 日に買い戻されたものの、2 日は NY 原油先物が急落した影響などで反落して引けている。今週は 5 日発表の 9 月の CPI に対する市場の反応が焦点。外部要因では 6 日に発表される 8 月の米貿易統計や原油価格の値動きが意識されそうだ。

▼指数チャート

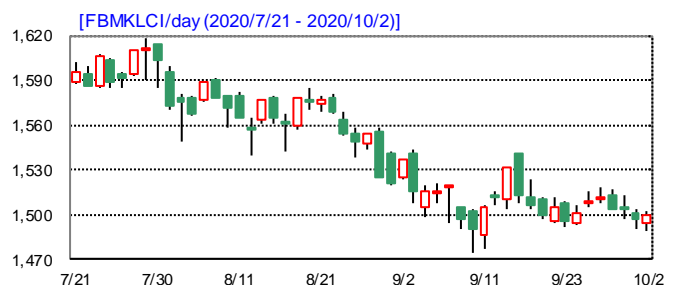


【マレーシア】

【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は 0.6%安、米禁輸措置の影響でプランテーション株が下落

クアラルンプール総合指数は週間で 0.6%安と 3 週ぶりに反落。9 月月間では 1.3%安。先週は一進一退の値動きだった。週初の 28 日は 7-9 月期末のお化粧品買いで 3 営業日続伸。同日に発表された 8 月の貿易収支は市場予想から下振れしたが、影響は軽微だった。1 日は前日に米国が強制労働の疑いを理由にパーム油生産の FGV ホールディングスからの輸入を禁止したことを受け、同業のサイム・ダービー・プランテーションと PPB グループが指数下落を主導。終値ベースで節目の 1500 ポイントを小幅に下回った。今週は国内の重要イベントが少なく、米 FOMC 議事要旨の発表など外部要因が指数を左右しそうだ。

▼指数チャート



本レポートは、株式会社 DZH フィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZH が信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZH はその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZH で入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZH は、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するにしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものであるとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZH は一切その責任を負いません。

DZH は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZH およびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があります、また今後そのようなレポートを発行する場合があります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH 自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容について DZH は一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。